

児童生徒が使う I C T 研修 4 (1 部)

考えを伝えるために
～ I C T 機器を使って～

やまぐち総合教育支援センター

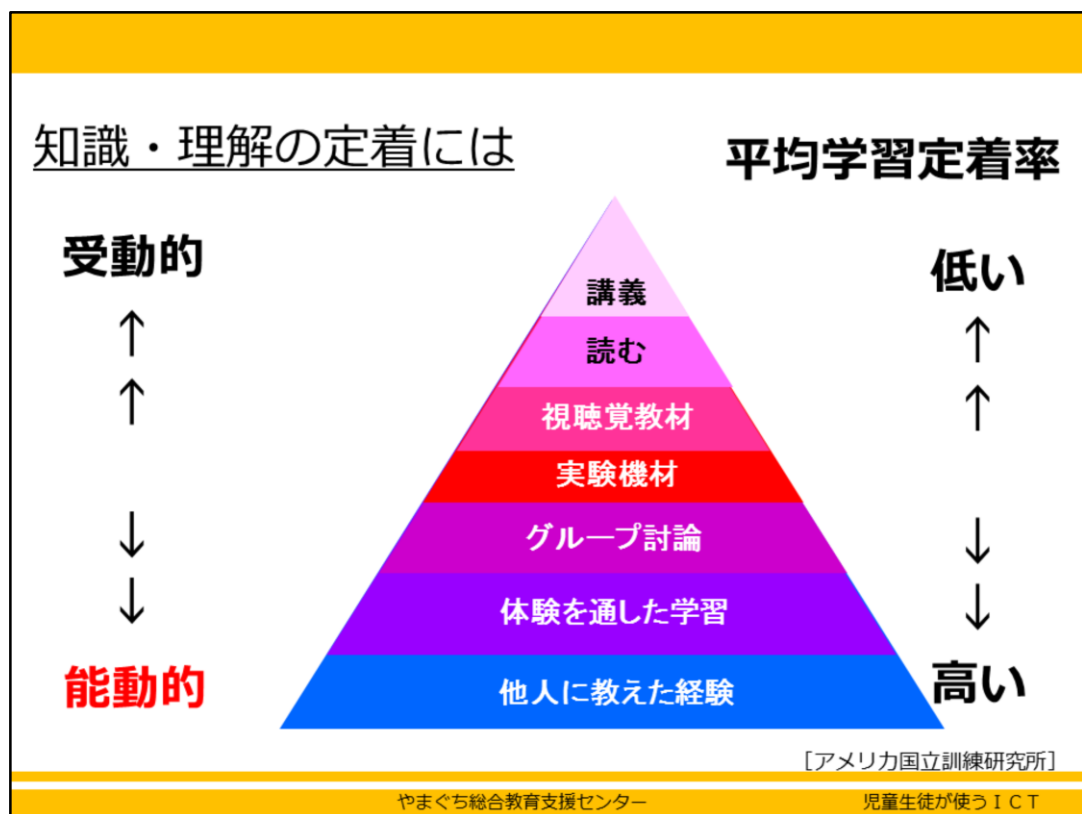
児童生徒が使う I C T

児童生徒が使うICT研修4「考えを伝えるために～ICT機器を使って～」を始めます。
(★)

研修のゴール

集めた情報や自分の考えを分かりやすく説明するために、ICT機器を活用した伝える力を身に付けるためのポイントを考える。

この研修のゴールは、「集めた情報や自分の考えを分かりやすく説明するために、ICT機器を活用した伝える力を身に付けるためのポイントを考える。」です。
(★)



子どもたちにとって、講義を聞くだけの受動的な学習では、知識・理解の定着率は低く、逆に体験するといった能動的な学習ではその率は高くなると言われています。

(★)同様に、自分が調べたことや学んだことを発表したり他者に教えたりすることで、定着率は高くなると言えます。

(★)

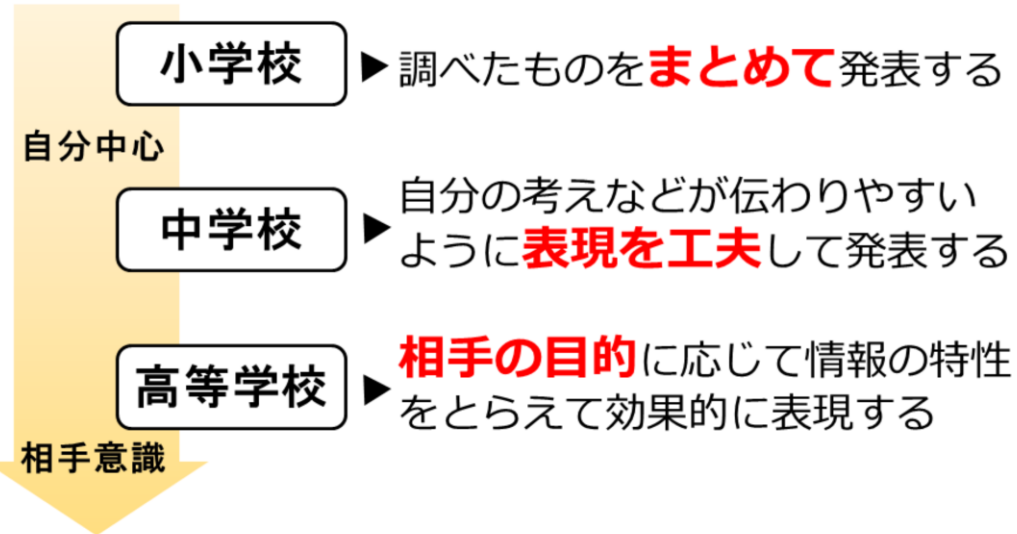


このことから、発表者が他者に分かりやすく伝える学習活動は、アウトプットの工夫につながり、発表者の学びを深める有効な手段だといえます。

(★) 同時に、発表場面のある授業では、聞き手にとっても、子ども同士がもつ情報や考えに触れることになり、共感的な態度や批判的思考力を身に付ける機会になります。教員は、発表者と聞き手の両者を育てる意識をもって、授業を展開することが大事です。

(★)

段階に応じた「伝える力」



文部科学省「教育の情報化に関する手引き」より一部抜粋

やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使うICT

文部科学省による「教育の情報化に関する手引き」の中で示されている「情報活用の実践力」について、各段階のポイントを見ていきます。

(★) 小学校段階では、調べたものをまとめて発表させます。

(★) 中学校段階では、自分の考えなどが伝わりやすいように表現を工夫して発表させます。

(★) 高等学校段階では、相手の目的に応じて情報の特性をとらえて効果的に表現させます。

(★) 段階を上げるにしたがって、自分が調べた事実や主観を発表する自分中心の姿勢から、聞き手である相手を説得できるような発表の工夫をする相手意識をもった姿勢を指導することが大切になってきます。

(★)

どのように I C T 機器を使うか

伝えるための
写真や動画を撮影

・風景、図形、動き、観察記録
など

インターネット上
のデータを取得

・図表、写真、テキストなど



やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使う I C T

より簡単で効果的に伝えさせるために、ICT機器を活用させましょう。

ICT機器を使えば、伝える活動に使用するための写真や動画をその場ですぐに撮影することができます。

また、インターネット上の有効な資料(図表、写真、テキストデータ)などもすぐに取得することができます。

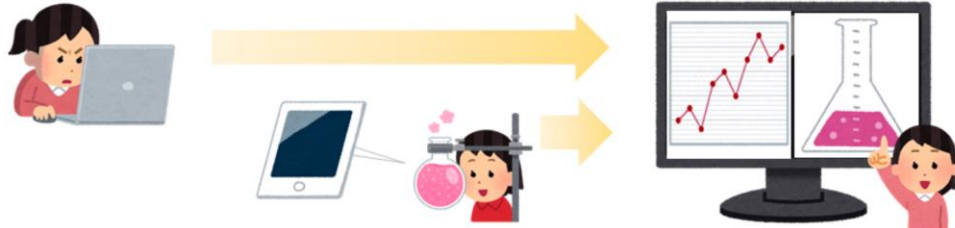
パソコンに限らず、タブレットやデジカメだけでも視覚的効果を高めるためのデータを取得することは可能です。

(★)

ICT機器を使った伝える場面



【例】ノートに記した求め方や撮影画像を組み合わせる証明する。



【例】テーマに沿って調べたことや観察記録による発見、考えを伝える。

やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使うICT

では、ICT機器を使った伝える場面にはどのようなものがあるでしょうか。

例えば、

(★)算数や数学の時間にノートに記した式や求め方とともに参考となる画像や資料を提示して伝える。

(★)テーマに沿って調べたことや観察記録から発見したことを基に伝える。

など、ICT機器を使うことによって、聞き手に分かりやすい説明をすることが可能になります。

(★)

ICT機器を使うメリット



やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使うICT

このように、ICT機器そのものに文字や図表、写真、動画など、デジタルデータを組み込むことができるため、

(★)発表者にとっては伝えるための表現の幅が広がり、聞き手にとっては発表者の話す内容がより理解しやすくなります。

(★)また、スライド等の順番を自由に変えながら、ストーリーを組み立てていくことができるため、発表者にとってはきちんと筋道を立てて説明することができ、聞き手にとっては内容を把握して評価しやすくなると言えます。

(★)

2部では、集めた情報や自分の考えを分かりやすく説明するための工夫を考えてみましょう。

2部では、集めた情報や自分の考えを分かりやすく説明するための工夫を考えてみましょう。
(★)